



Associação Crianças de LUZ

CANOVA

だより66 August 2020

文・写真_鈴木真由美 編集_星久美子・真野由紀 発行_光の子どもの会の会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先: info@criancasdeluz.org

2020年が始まった当初、まさか新型コロナウイルスの影響で、世界規模の自粛や規制が行われるとは、だれが予想していたでしょうか。私は2月に2週間ほどブラジルに行ったのですが、そのときにはブラジルの方が安全だといわれており、「日本の国際空港を通過すれば、大丈夫だよ」と言われていたことを思い出します。それが7月4日現在、ブラジルの感染者は約154万人となり、死者数も6万3000人を超えました。しかし、大都市のサンパウロやリオ・デ・ジャネイロでは経済活動の再開が本格化しており、まだまだ感染拡大が続きそうです。

セアラ州では、段階的な経済活動の再開は実施されているものの、まだまだ自粛が続いています。州都であるフォルタレーザは、ヨーロッパからの直行便があることが災いし、今ではブラジルで一番新型コロナウイルスによる死亡者の多い場所となってしまいました。こうした現状もあり、アラカチ市はロックダウンを実施。私たちが住むカノア・ケブラーダ地区は住民以外の立ち入りを禁止しました。6月に入り、解除されたものの自粛が続いていたのですが、エステーヴァン村内でも感染が確認されました。

カノアの保育園や学童教室は休校となり、8月には開校されるのではないかと考えていたのですが、アラカチ市教育局より、引き続きオンライン授業の実施が言い渡されました。現地の教職員と何度もオンライン会議をし、保育園や学童教室ではオンライン授業という方法は難しいという判断となりました。そこで私たちが考えたのは、「動画&キットの配布」。全ての子ども達と定期的なつながりを持ち、家の中でも何か学ぶことができるようにしてあげたい。まずはそれを試していきたいと思います。

新しい生活様式。ブラジルでも始まっています。先行きが不透明だからこそ、今できることに全力を尽くしていこう。それが、ブラジルの教職員との一致した考えです。

オンラインで行うにあたり、今までとは異なる費用が必要になってきます。会員の皆様から頂く会費や寄付。そして支援してくださっている方たちのお金はすべて、現地の活動に役立てさせていただいています。引き続き支援のほど、よろしくお願いいたします。

「光の子どもたちの会」の先生

新型コロナウイルスの影響について聞きました 翻訳: 鈴木真由美

Girlene Pereira dos Santos (ジレーニ・ペレイラ・ドス・サントス) 先生より

世界がたった一つのウイルスによって止まってしまうなんて、想像したこともありませんでした。テレビでその様子を見ていた時でさえ、私たちが住むこの村には起こらないだろうと思っていました。

しかし、ブラジルにまでその影響は出始めてしまったのです。それでもなお、サンパウロやリオ・デ・ジャネイロ、ブラジリアのような大都市にしかこのウイルスはこないだろうと考えていました。それから数か月後、残念ながら新型コロナウイルスはこんな小さな私たちの村にまでやってきたのです。そしてウイルスは、不安と恐怖をもたらし、村はパニックになりました。数日間は一歩も外に出ませんでした。本当に家を出なければいけないときは、マスクをつけ、手はアルコール消毒をしました。すべて止まってしまいました。学校、海の家、バー、レストラン、ホテル、観光業など、本当にすべて……。

マスクをつけるのも義務となりました。中にはマスクをつけない人もいます。自分は感染するわけがない。本当に感染しないとしても、ウイルスを運んでしまう可能性があるということには気づかないのです。

私たちは今、自宅にいます。一番の心配は、子ども達です。本当に授業は再開されるのだろうか？ どうやって戻るのだろうか？ 身体接触なしで、どうやって子ども達と接すればいいのだろうか？ たくさんの疑問や課題があります。今でも私たちは大きな不安を抱えています。しかも、この先どうなるのか、だれにも予想はつかないのです。

私たちの学校、「光の子どもたち」は、パンデミックが起こるまで、出会いの場であり、遊びの場であり、自然と触れる場であり、学びあう空間でした。それが今は閉まっています。



動画は
こちらから！

私たち教職員は、私たちに何ができるのかということは何度も話し合ってきました。そして、動画を作成し、配信することに決めたのです。子ども達へ向けての活動ビデオ。ソーシャル・ディスタンスがあっても、一緒にいると感じられるのではないだろうか。そう考えたのです。季節の行事、手仕事、調理、芸術や文化など。子ども達が飽きないように、動画は短いものにしました。

最近では、「Festa de Sao Joao (Festa Juninaという、6月のお祭りと言われるものと同じもの)」に向けて、手作りのランプを子ども達に届けました。本当ならば、このお祭りをもって、前期が終了となり、長期休暇に入るはずだったのです。残念ながら、子ども達はもうずいぶん長い間休暇となってしまっていますが。そしてまだ、この先どうなるのかという見通しも立っていません。本当にさみしく、難しい問題です。それでも、私たちは希望を失ってはいません。私はウイルスが去ることを信じています。そして今回のことは、世界中の全ての人にとって、学びの期間となったことでしょう。インターネットを使っての授業。動画視聴による授業。ブラジル・ヴァルドルフ協会のグループにSNSを通じて参加するようになり、会議や研修も受けられるようになりました。新しい形を今、私たちは日々学んでいるのです。

- Festa de Sao Joaoのランプの作り方
- イースター卵の作り方
- カノア保育園及び学童教室で行っている活動
- 家族の日へのプレゼント作りなど

研修生ブルーナさんの大学進学を応援してください！

光の子どもたちの会は、活動を通して、特に子どもたちに対し、自らの将来を選択していくための「生きる力」を持てるように支援しています。その1つとして、エステーヴァン村の人々が夢を実現するための「学資支援」を行っています。

今まで、私たちが支援してきた人たちは、5人。そのすべての人達は教育学士となり、教師としてサンパウロの学校で、アラカチ市の公立学校で、そして私達と共に働いています。昨年から、多くのボランティアからは“コライ”として知られている、ニリアーニ(Niliane)さんも、大学に入学しました。

そして2020年8月、カノア保育園を卒園、その後学童教室を経て、高校3年生の時に研修生として働いていた、ブルーナ(Bruna)が大学に入学することになりました。

1人でも多くの子ども達が、自分の夢を実現できるよう、ぜひご支援ご協力いただけますよう、お願いいたします。

学費+交通費として、約12,000円/月・人が必要です。
ご支援いただける方は、振込用紙の欄に「学資支援」と記入いただけますよう、お願いいたします。

大学に入学するというのは、私にとって新しい挑戦であり、新しい学びであり、夢へのドアを開いてくれました。この手紙を通じて、今度は教員という立場として「カノア保育園」を知ることができることに、感謝したいと思います。

当初、保育園や学童教室で働くことが、本当に私のやりたいことだろうか。自分はまだ若く、精神的にはまだ子ども。そんな私に務まるのだろうか……。そう感じていました。研修生として働かせてもらう中で、私は責任を持つことを学び、社会に対する見方や知識を学ぶことができました。

一番初めに保育園を訪れた時、子ども達の中の「光」と出会いました。小さな子ども一人ひとりに対する、先生たちの接し方。働いていることの誇りとそれぞれの目標を見ることができました。先生としての経験がない中、光の子どもたちの活動に参加することになった私は、働いている人たちだけでなく、保護者と目の前にいる子ども達との絆を大切にしようと心掛けました。みんなで力を合わせることで、本当に素晴らしい活動を行うことができました！

研修生として働いた後、これからの自分の人生を考え、一步前に進むことを決めました。大学の教育学部に入り、学ぶことにしたのです。大学で学ぶことのできる知識や新しい人々との出会い、新しい環境は、私をたくさん助けてくれることでしょうか。私にとってすべて初めてのことばかりです。大学で学ぶことは、そんなに難しいことではないと感じています。でも、高校までとは異なるということも分かっています。学んだことはすべて、生かしていきたい。だからこそ、私が大学で学ぶことを、応援していただけませんか？ 人生にとって、目標があるというのはとても大切なことです。その1ページ、1ページを皆さんと一緒に、保育園や学童教室の中に返していくこと。それが、私の今の目標です。

皆さんからご支援をいただけたら幸いです。

Bruna Angelo Silva
8月に大学に入学するブルーナさん



カノアニュース*Novidade em Canoa

カノア保育園の井戸が閉鎖?!

LUSHジャパンのチャリティー募金という助成金を使って改修した園庭にある井戸。現在ではエステーヴァン村のライフラインを担うまでになっています。家に水道は来ているものの、飲み水などには適しておらず、水を購入することが当たり前のエステーヴァン村。しかし、毎日の水と考えると、村の人々にとっては大きな負担。住民たちは毎日この井戸に水を汲みに来ています。

新型コロナウイルスの感染がエステーヴァン村で確認されたとき、公共の井戸は閉鎖すべきではないかという議論が起きました。感染者は井戸を毎日使用していたからです。現地の教職員が毎日消毒をするだけでなく、全ての人が使用した後にアルコール消毒できるようにアルコールを設置しました。それでも、守らない人がいる限り、閉鎖をしなければならなくなってしまう。ポスターを貼り、SNSで拡散し、1週間様子を見ることにしました。すると、井戸が使えなくなってしまうのは困ると、井戸を汲みに来る人がみんなマスクをつけ、消毒をし、園庭に入る人数制限までするようになったのです。新しい生活様式。それがエステーヴァン村の中でも始まっています。



LUSHジャパン、チャリティーバンク:

地域の森に生育する植物を生かした、子どもの健康改善プロジェクト

エステーヴァン村は、特別政府保護地域になっていると同時に、環境保護地域に指定されています。2000年当時、まだ祈禱師が村の中にはいて、アナーリアさんというその人は、村の人々にはなくてはならない人でした。村の人達もまた、森や村の中に生えている木々やその実、薬草を使って料理をし、病を癒し、予防していました。それが今、失われようとしています。

そこで今回の事業では、森に生育する薬草などの使用方法などの昔ながらの知恵を年配者がまだ存命の内に調査し、冊子にまとめることにしました。それと同時に、調査した方法を使って子どもの健康改善に活かすと共に、その活用方法をワークショップとして実施していきます。まずは、学童教室の子ども達と共に森を散策し、子ども達自身が森の保全活動を実施していけることを目指していきます。今回のプロジェクトが、豊かな森を地域住民自らが守り、伝統の伝承を実現させるための基盤をつくることを願っています。

ゆうちょ財団:学童教室実施から学ぶ、公立小学校におけるライフスキル授業実施事業

JICA草の根技術協力事業として、2013年から2015年まで、光の子どもたちの会として実施してきた、学童教室を通じて学んだ方法を生かして、アラカチ市内において、アラカチ市の公立学校27校の代表者(中学生)に対する「ライフスキルトレーニング」を実施しました。ライフスキルトレーニングを受けた中学生たちは、自分たちが体験した授業をより多くの中学生に体験してほしいとってくれました。そこで彼らが提案したのは、学校の教員に対してトレーニングをすることでした。私たちはJICA草の根技術協力事業として、2016年から2018年までアラカチ市公立学校13校の教員に対して、ライフスキルトレーニングを実施することにしました。その後、2019年に行った調査では、アラカチ市公立学校13校全てにおいて、月1回の定期的なライフスキル授業が実現されていました。しかし残念ながら、その授業内容や質に学校格差が見受けられるようになっていました。

そこで、今回の事業では、指導教員に対する養成講座を実施し、授業内容や質の担保を図るとともに、授業研修が実現されることで、教員同士の相互理解及び学びの体制を整えることを目指していきます。2020年4月から開始された本事業ですが、新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの研修や各学校との報告会が行われています。本来であればみんなで集まり、グループで議論を交わしながら、授業案を作りあい、見せ合うことが、今回実施したいことでした。それが現状ではかきません。ゆうちょ財団からは1年間の延期が認められたため、今回実施していきたい内容をもう一度見直し、来年度実施していくことができるように計画し直していきたいと考えています。どのような活動を実施していくことができるのか、楽しみにして下さい。

JICA草の根技術協力事業、事後調査

JICAで新しく実施されている、事業実施後の調査。私たちが2016～2018年に実施していた事業が今、どうなっているのかということ調査するために、JICA横浜の担当者をはじめ、専門家としては秦野市教育委員会の佐藤部長と関野指導主事、私の合計4人が、2020年2月上旬、ブラジルのセアラ州アラカチ市に行ってきました。

今回の調査は、前回の事業がその後、現地でどのように継続されているのか。そして、現地で持続可能な活動としていくためにどんな課題があるのか。この2点が大きな目的でした。さらに、専門家を同伴できたことで、学校教育の専門家が新しい教科である「ライフスキル授業」を現地で実施していくために2つの講演及びワークショップを実施してくれました。1つは、アラカチ市教育局に対して、PDCAサイクルの講義を行ってくれました。また、実際に「ライフスキル授業」を実施している担当教員を中心に、授業研究の大切さを学ぶワークショップを行いました。

専門家の2人は多忙なスケジュールの中での渡伯ということもあり、かなり強行スケジュールでした。そのため、現地には実質2日しか滞在できませんでした。そのため、その後1週間かけて、JICA横浜の担当者と私はアラカチ市教育局、「ライフスキル授業」を実施している学校を訪問し、インタビューをしたのです。

現地では、自分たちのできる範囲で行える方法を模索し、「ライフスキル授業」を実施していました。しかし、私たちが思っていた以上の広がりを見せ始めていたため、質の低下も認められ、早急に研修などを実施していく必要があると感じました。また、アラカチ市教育局では、モニタリング・評価がきちんと行われておらず、担当教員のフォローアップができていない状況でした。

アラカチ市の中で「ライフスキル授業」が根付いてくれるためには、あともう一步のところまで来ています。今のままでは、数年後、授業が実施されなくなってしまうかも知れません。現地の教員が抱えている意欲をなくさないためにも、今、最後の一步が必要な時が来ています。

新型コロナウイルスの影響で、2021年の事業実施は困難となりました。今後の情勢にもよりますが、少しでも早く、現地での活動をサポートできるよう、今できること。準備をしていきたいと考えています。

アラカチ市全体とは言いません。せめて、カノア・ケブラーダ地区の住民をサポートしていきたい。皆様の中でご支援いただけることがあれば、ぜひご連絡下さい。また、こんなアイデアがある！！という方もぜひ、連絡いただければと思います。

「今私たちにできること」

それをぜひ、一緒に考えていきましょう。



子育て日記より

2020年3月。小学6年生と中学3年生になった娘たちは、卒業を迎えました。いつもなら、卒業式に参加し、娘たちの晴れ姿を見送ることができるのですが、残念ながら式に参加することはできませんでした。そして、4月の入学を迎えました。自粛のため、学校にいけない日々が続きました。自分が中学生、高校生となった自覚がない…そういう彼女たちの姿を見て、なんともやりきれない気持ちがありました。そして6月に入り、ようやく分散登校ではありますが、学校に通い始めた娘たち。新しい学校に、新しい友達。それぞれがその環境の中で、毎日楽しく過ごしている姿を見ることは、親としてとても嬉しかったです。それと同時に、学校という空間が勉強だけではなく、社会で生きていくうえで大切なものを教えてくれる場所なんだということ、再認識させられました。娘たち、特に長女は、寝る前に2時間もの間、学校であったこと、友達のこと、今考えていることなどを話してくれます。その時間は、私にとってとても幸せな時間です。

それにしても娘たちはよく話します。私に似て、おしゃべりなのではないでしょうか???

国内活動＊Atividade no Japão

●ブラジル料理教室レポート byマルコス・ペルシチさん

普通に「〇〇教室」という言葉を考える時には、先生がしゃべって、学生が聞いて、そのあと質問タイムがあったり、または場合によって実践の時間などある。このなかには参加者の間の実際のコミュニケーションは少ない場合が多い。その上に、「先生」は専門家として「偉い」人の設定になり、学生と先生との距離は無視できない。そのため楽しいより堅苦しい「教室」が多いかもしれない。そんな雰囲気なかでは人の「交流」は盛んにならず、例えば料理教室であれば、料理の作り方は理解できるが、一緒に学んでいる他の生徒の名前以外は知らないまま卒業することもあるだろう。



「教室」が開かれるとき、そこに集まっている人には少なくとも何かの共通点がある。例えばここで話題にしている教室についていえば、それは「ブラジル料理」だ。もちろん教室だから学ぶことは第一目標だが、エレナ先生の教室は「ブラジル料理の作り方」を学ぶだけの場ではないといえる。理由はいくつかあるが、ここでは2つ紹介したい。第1の理由はエレナ先生はとても話しやすい先生で、積極的に生徒と交流する珍しい教師であるために、皆が緊張することなく、そこにいる他の人々と賑やかに楽しみながら学ぶ場となっていることだ。先生のやさしさとそれをきっかけにした楽しい雰囲気が、確実に学ぶ人のモチベーションをあげている。第2の理由は「柔軟性」にあるといえる。レシピ通りに作るのとは料理の原則だと思うが、レシピに「1グラム」と書いてあったとしても、この教室では必ずしもその「1」は動かない数字ではない。先生が参加する人たちと一緒にアレンジして、量を増やしたり、野菜の切り方を変えたりする。この柔軟性の結果、この教室で出来上がる料理は非常にブラジル家庭料理の味に近い！答えは一つに限らない。

こんな雰囲気では料理が得意ではない人も得意な人も区別なく料理を作ることに参加できるし、最終的に出来上がるものには全員の貢献が反映される。いつも参加者は積極的に作業に加わったり、周りで見ながら声を掛け合ったり、それぞれに楽しんでいる。楽しい経験をするから何度も繰り返し参加する人が多いし、一度来た人からの紹介などで益々生徒は増えてきているように思う。私はこの教室のおかげで参加者の何人もの人と個人的に仲良くなって、教室外の時間にも集まって皆で遊ぶことが時々ある。この教室の「交流」の場としての可能性はとてもあって、友達を作りやすい教室なのだと思う。

最初にこの教室に集まる皆の共通項は「ブラジル料理」だと書いたが、実は先生にも生徒にも共通の目的が、別にもある。それはブラジルのカノア・ケブラーダという町に住んでいる子どもたちの支援だ。このことはそもそもこの料理教室の存在理由であり、間違いなく皆の参加動機のひとつになっている。ブラジルは日本と違ってまだ発展途上国で、日本で当たり前になっている町のインフラの整備、公立学校の提供などが未だに保障されていない地域が少なくない。そのような地域にいる人々も皆自分たちの生活のために必死に努力しているが、それを助けるNPOの支援活動は重要な役割を果たしているといえる。地球の反対側の遠い国の子どものことを、日本人たちがこれだけ多く集まって考えてくれていることはとても素晴らしいと思う。このことはエレナ先生の人柄の魅力と惜しみない貢献が果たしている結果だと、ひとりの参加者として思っている。

マルコス・ペルシチさん (36歳、ブラジル人。2010年に留学生として来日。大学院を経て現在会社員。趣味はゲーム、映画。好きな料理はホットドッグ。2018年からエレナ先生のブラジル料理教室に通っている。)



同封のチラシを
ご覧ください！

●本を出版します！

2010年、「今までのカノアでの体験をまとめてみたら？」という話をもらいました。そして自分の体験記のようなものを書いてみたのが、残念ながら、それは日の目を見ることはありませんでした。それからさらに10年。今年ようやく、本の出版が決まったのです。原稿は書きあがり、今は編集作業をしています。カノアの写真をふんだんに使った1冊の本。主にカノア保育園が始まったばかりの頃を中心に書きました。できあがりましたらまた、皆さんにご報告しますので、ぜひお手にとってくださいね！

活動計算書

2019年 1月 1日 ~ 2019年 12月 31日 まで

(単位:円)

科目	金額	金額
I 経常収益		
1. 受取会費 正会員受取会費	100,000	100,000
2. 受取寄付金 受取寄付金 学資支援費 修繕支援費 サッカー支援金 音楽支援金	532,529 0 0 0 0	532,529
3. 受取助成金等 LUSHジャパン 日蓮宗あんのん基金	1,402,000 420,000	1,822,000
4. 事業収益 物品販売 JICA草の根技術協力型	152,156 1,088,000	1,240,156
5. その他収益 受取利息	485	485
経常収益計		3,695,170
II 経常費用		
1. 事業費 (1) 人件費 給料手当 人件費計	1,353,846 1,353,846	
(2) その他経費 保育園事業 音楽支援事業 施設維持費 学資支援費 LUSHジャパン 日本国際協力財団 JICA草の根技術協力事業	103,388 0 32,940 99,391 654,993 735,757 0	
事業費計	1,626,469	2,980,315
2. 管理費 (1) 人件費 人件費計 (2) その他経費 雑費 その他経費計	0 29,184 29,184	
管理費計	29,184	29,184
経常費用計		3,009,499
当期正味財産増減額		685,671
前期繰越正味財産額		841,336
次期繰越正味財産額		1,527,007

科目	金額	金額
I 経常収益		
1. 受取会費 正会員受取会費	250000	250000
2. 受取寄付金 受取寄付金	1500000	1500000
3. 受取助成金等 LUSHジャパン	0	0
4. 事業収益 国際協力事業(物品販売)	100000	100000
5. その他収益 受取利息	10	10
経常収益計		1850010
II 経常費用		
1. 事業費 (1) 人件費 給料手当 人件費計	1700000 1700000	
(2) その他経費 教育支援事業 保育園及び学童教室食材費 保育園及び学童教室教材費 保育園及び学童教室研修費 保育園及び学童教室施設維持費 教育事業(LUSHジャパン) 国際協力に関連する教育分野の普及啓発事業 原稿・講師謝礼 会場費 雑費 国際交流事業(事業報告会等の実施) 会場費 雑費 国際協力事業(物品販売) 会場費 雑費 支援寄付金 雑費	30000 5000 5000 5000 30000 5000 10000 992007 30000 5000 10000 30000 5000 5000	2692007
事業費計	992007	2692007
2. 管理費 (1) 人件費 人件費計 (2) その他経費 雑費 その他経費計	0 100000 100000	
管理費計	100000	100000
経常費用計		2792007
当期正味財産増減額		△ 941997
前期繰越正味財産額		1527007
次期繰越正味財産額		585010

ありがとうございます＊Obrigado

2019年11月16日～2020年6月5日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響で保育園及び学童教室が休校となる中、現地では個別相談や動画の配信など、「#今できること」に取り組んできました。今までとは異なる形での支援が必要となってきます。引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

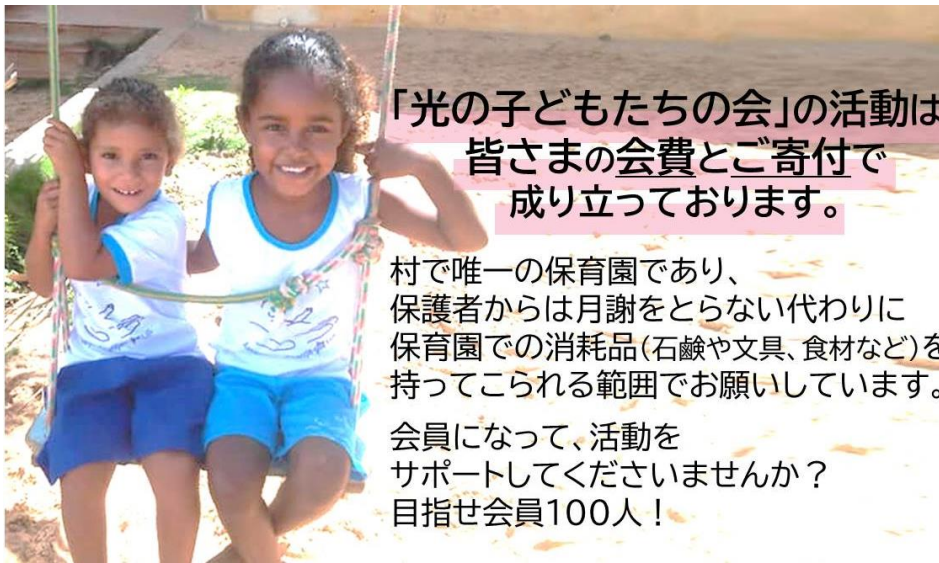
目標会員100名！！

会費及び寄付を頂きました皆様(順不同)

安藤一樹さま、石田泰三さま、石田まどかさま、太田朋子さま、大塚晶さま、大庭富美加さま、定森徹さま、馬場悠男さま、長谷川宏さま、藤本くみさま、堀池眞輔さま、堀池ミツ子さま

物資支援をいただきました皆様(順不同)

横浜シュタイナー学園さま



「光の子どもたちの会」の活動は
皆さまの会費とご寄付で
成り立っております。

村で唯一の保育園であり、
保護者からは月謝をとらない代わりに
保育園での消耗品(石鹸や文具、食材など)を
持ってこられる範囲でお願いしています。

会員になって、活動を
サポートしていただけますか？
目指せ会員100人！

年会費(5,000円)・ご寄付のお振込み方法

1. 自動引き落とし

お持ちの口座の金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行からお振込の場合は以下の【2. 郵便振替】と同じ口座番号ですが、他金機関からの振込の場合には、【3. ゆうちょ銀行振込】の口座番号となりますのでご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号 00280-1-41787

加入者 光の子どもたち・カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義 光の子どもたちの会 店名 ○二八(ゼロミハチ)

店番号 928 普通 口座番号 5552598

くわしくは、HPを
ご覧ください！



http://criancasdeluz.org/initial/index_jp.html

問い合わせ先:代表 鈴木真由美 日本事務局長 堀池眞輔
〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町1-7-1
☎045-321-1824 info@criancasdeluz.org